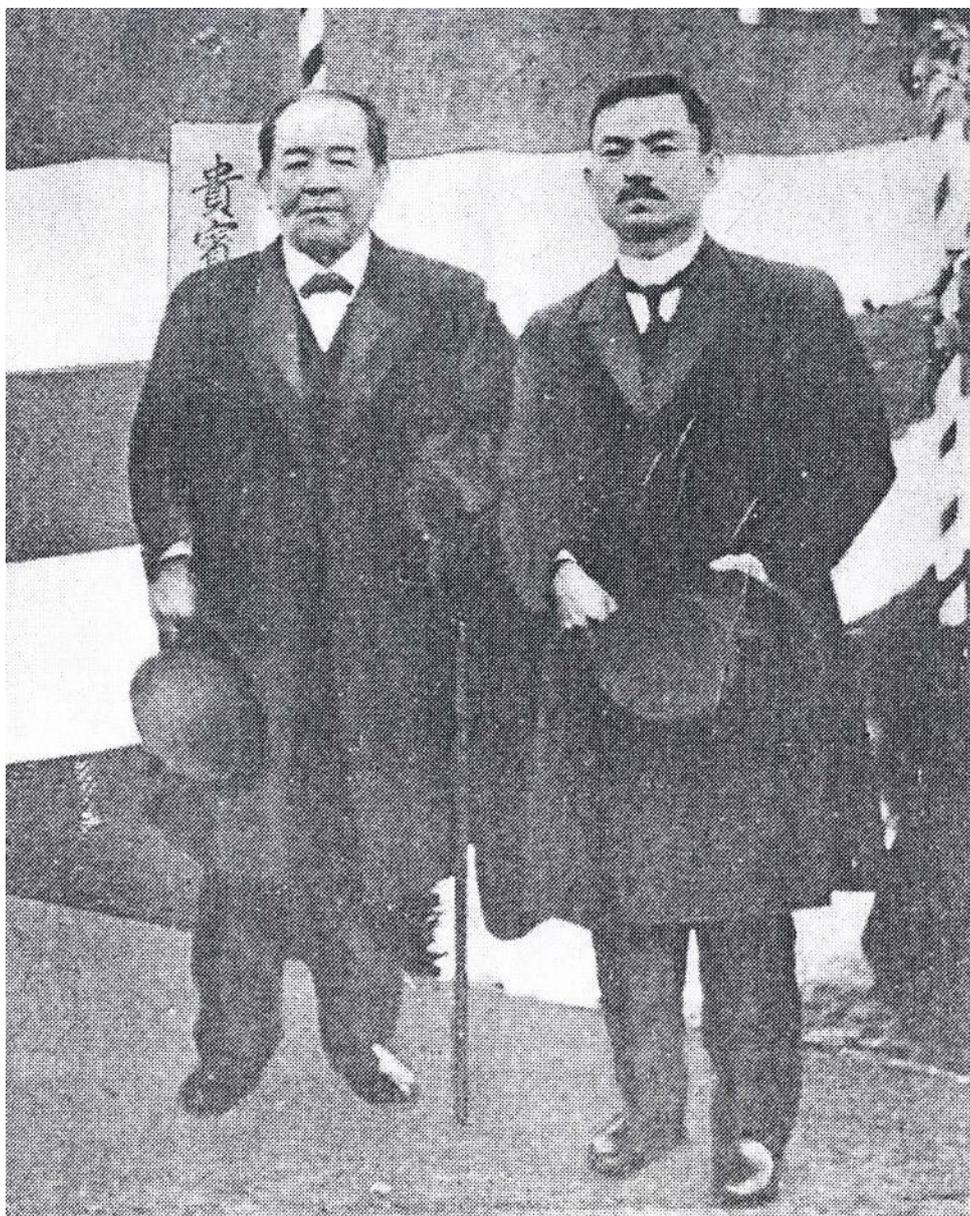


第 26 回 <sup>かんだらいぞう</sup> 神田鑪藏と <sup>しづさわえいち</sup> 渋沢栄一(答えと解説)



神田鑪藏(右)と渋沢栄一(左)  
(『風雲六十三年神田鑪藏翁』より)

<sup>かんだらいぞう</sup> 神田鑪藏は、<sup>すなり</sup> 須成村(蟹江町大字須成)出身の人ですが、新しい  
一万円札の顔となった、<sup>しづさわえいち</sup> 渋沢栄一と深い交流があった人です。  
神田鑪藏は、どんな人だったのか、渋沢栄一とどのような関係  
だったのか、学んでみましょう。

①<sup>かんだらいぞう</sup>神田鑄藏は明治5年(1872)、<sup>すなり</sup>須成村(今の蟹江町須成)の「紅葉屋」という名前の店(会社)の子として生まれました。何をつくっていた店でしょう？

ア 酒    イ しょうゆ    ウ みりん

答えは、アの酒です。

明治時代、蟹江町の真ん中を流れる蟹江川ぞいには、酒やみりんをつくっているところがたくさんあったそうです。神田鑄藏の家も、蟹江川ぞいにあり、酒づくりをしていました。家の前に大きな紅葉の木があったので、店は紅葉屋と名づけられたそうです。鑄藏は、県外に酒づくりを学びに行ったこともあり、若くして酒造組合の<sup>ふくとうどり</sup>副頭取(2番目にえらい人)になったこともありました。



蟹江川と神田鑄藏の生まれた家(左) (『紅葉屋十年誌』より)

②<sup>かんだらいぞう</sup>神田鐳藏は、27才のときに家を出て東京へ行き、<sup>きんゆう</sup>金融取り引きの店をひらきました。地元<sup>ぢやんぽ</sup>にちなんでつけたという、その店の名は次のうちどれ？

ア 蟹江屋    イ 須成屋    ウ 紅葉屋

答えは、ウの紅葉屋です。

鐳藏は、実家の酒づくりよりも、株<sup>かぶ</sup>に関心を持つようになり、株の取り引きの仕事をしたと言いましたが、父親の大反対にあいました。母親の実家の助けをうけて資格をとり、名古屋で株をあつかう店をひらきました。店の名前は、実家の酒づくりの店と同じ「紅葉屋」でした。はじめは大もうけしましたが、株の暴落<sup>ぼうらく</sup>で大損<sup>そん</sup>して店をしめることになり、気もちを切りかえ、東京へ行って金融取り引きの店「紅葉屋」をひらきました。この店では、外国との取り引きも見込んで、英語<sup>えいご</sup>の日報<sup>にっぽう</sup>を発行するなどして、成功<sup>せいこう</sup>にむすびつきました。鐳藏は、このころから、東京で活躍<sup>かつやく</sup>していた渋沢栄一<sup>しぶさく えいいち</sup>に会いに行き、仕事の相談をしたり、新しい自分の考えを示したりして交流を深めました。



東京の「紅葉屋」 (『紅葉屋十年誌』より)

③<sup>かんだらいぞう</sup>神田鑄藏は、東京で<sup>しづさわえいち</sup>渋沢栄一らと出会い成功した後、親への感謝の気持ちをこめて、「<sup>かんだしかけいひ</sup>神田氏家系碑」を地元の須成にたてました。その文字を書いた<sup>しづさわえいち</sup>渋沢栄一が、碑の完成を祝う<sup>じよまく</sup>除幕式のあいさつで<sup>かつやく</sup>神田鑄藏の活躍ぶりをたどった、<sup>ぶしやう</sup>愛知県出身の武将はだれでしょう？

ア <sup>おだのぶなが</sup>織田信長      イ <sup>とよとみひでよし</sup>豊臣秀吉      ウ <sup>とくがわいえやす</sup>徳川家康

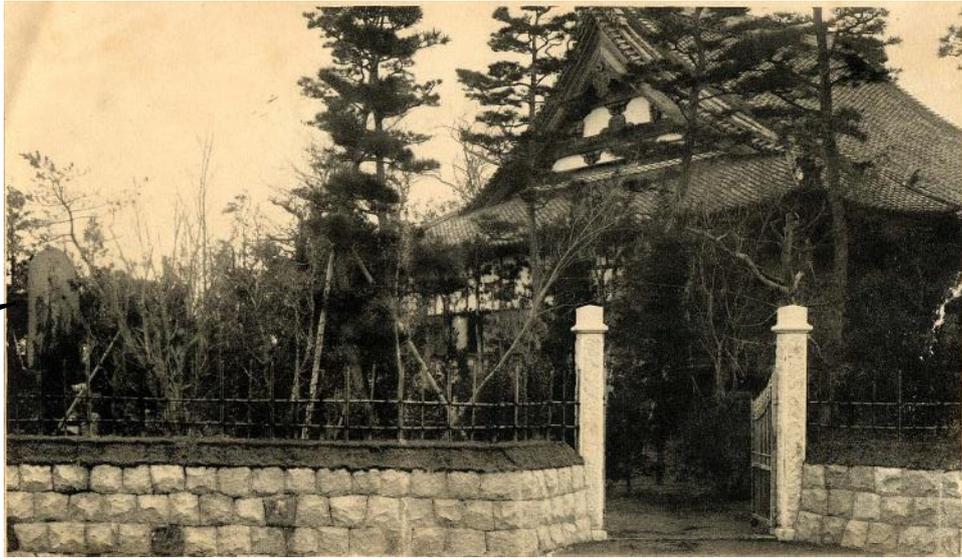
答えは、イの豊臣秀吉です。

神田鑄藏は、外国との取引などで大成功し、東京<sup>ゆうかしやうけん</sup>有価証券取引組合をつくり委員長になりました。また、明治の終わりには<sup>せつりつ</sup>紅葉屋銀行を設立しました。さらに、お金に<sup>こま</sup>困っていた高校を助けて校主になったり、<sup>うきよえ</sup>浮世絵を集めて海外流出を防ぎ大学教授から感謝状をもらったりするなど、文化面でも活躍しました。大正4年(1915)、こうした成功は親のおかげだという思いから、鑄藏は「神田氏家系碑」を須成の<sup>ぜんきやうじ</sup>善敬寺のとなりに作った庭にたてました。そして、<sup>じよまく</sup>除幕式のあいさつで<sup>しづさわえいち</sup>渋沢栄一は、このように言ったそうです。

「昔、<sup>こ</sup>豊臣秀吉公が<sup>こ</sup>呱呱の声をあげられた(生まれた)尾張の中村という歴史的な名村は、この須成村からほど遠くない所だとのことですが、三百年後、その<sup>なごう</sup>名郷(ふるさと)、中村からほど遠からぬこの村から、<sup>たいこう</sup>今太閤(豊臣秀吉)と言ってもいいほどの神田君が出生されたということは、この土地の<sup>めいよ</sup>名誉のことと存じます」

ちなみに、このとき、<sup>けいざい</sup>渋沢栄一など<sup>しやうたい</sup>経済界で活躍していた人たちを招待するために、名古屋から<sup>か</sup>貸し切り列車を用意したそうです。また、関西本線の蟹江駅から会場まで、<sup>はた</sup>道ぞいに旗やちょうちんをめぐらし、子どもから老人までたくさんの地元の人たちが<sup>かんげい</sup>ならんで歓迎したそうです。

石碑



「神田氏家系碑」をたてた時の碑のまわりの様子（除幕式の絵はがきより）



「澁澤榮一書(渋沢栄一書)」と書いてあります。



「神田氏家系碑」



今の「神田氏家系碑」のまわりの様子 今は善敬寺の墓地になっています

④<sup>かんだらいぞう</sup>神田鐳藏と<sup>しづさわえいいち</sup>渋沢栄一は仕事以外でも交流がありました。次のうち、<sup>いがい</sup>渋沢栄一が神田鐳藏のためにしたことは、どれでしょう？

ア いっしょに海外旅行に行って友人を<sup>しょうかい</sup>紹介した

イ <sup>けっこん</sup>結婚相手を紹介した

ウ 子どもの名づけ親になった

答えは、ウの子どもの名づけ親になったです。

鐳藏は、明治44年(1911)に清水<sup>わ</sup>さ己と結婚しました。さ己を紹介したのは渋沢栄一ではありませんでしたが、結婚式には、渋沢栄一夫妻が立ち会ったそうです。次の年、神田夫妻は<sup>しさと</sup>視察をかねてヨーロッパ<sup>かっこく</sup>各国やアメリカをめぐる新婚旅行に出かけました。渋沢栄一はいっしょには行きませんでした。通訳について、言葉が分かるだけでは良くない、人からも立派な人をえらぶように、というアドバイスをしたそうです。

このように渋沢栄一と<sup>こうし</sup>公私ともに交流を深めるなか、大正10年(1921)には鐳藏に息子が誕生しました。渋沢栄一が名付け親になり、「<sup>きんいち</sup>謹一」と名付けられました。謹一は、後にホテルの<sup>けいえい</sup>経営の仕事をして活躍しました。



鐳藏の結婚式の写真(『私の回顧録』より)  
(真ん中の2人が神田夫妻、外側の2人が渋沢夫妻)



さ己と謹一 (『私の回顧録』より)

⑤神田鑄藏は、東京で成功してもうけたお金を、地元のためにも使いました。その一つとして、大正13年(1924)、地元の神社に1万円の寄付をしました。今だと、いくらぐらいの価値になるでしょう？

ア 約250万円    イ 約2500万円    ウ 約2億5000万円

答えは、イの約2500万円です。当時と今の、大学を卒業した人の初任給を参考にすると、約2500倍になります。

神田鑄藏は、経済界で活躍するだけでは満足せず、政治の世界にも関心をもっていました。国会議員の選挙に出ないかとさそわれた時、地元の親戚に相談したところ、その前に地元のために何かした方が良く、と言われ、地元への寄付をさかんにするようになりました。地元の富吉建速神社・八剱社への寄付のほか、学校にはピアノ、消防団にはポンプを寄付しました。また、須成から津島へ通じる道路をつくるためのお金を寄付して、工事を早く終わらせたとも伝えられています。

このように、選挙に出るために地元のへの寄付をした鑄藏ですが、結局、政治家になることはありませんでした。多くの会社を立ち上げて成功をおさめ活躍した鑄藏でしたが、大正12年(1923)の関東大震災にきっかけに、昭和2年(1927)金融恐慌がおきて株が暴落、鑄藏はほとんどの財産を失うことになり、持ち直すことのないまま、昭和2年(1934)病気で亡くなりました。享年63才でした。

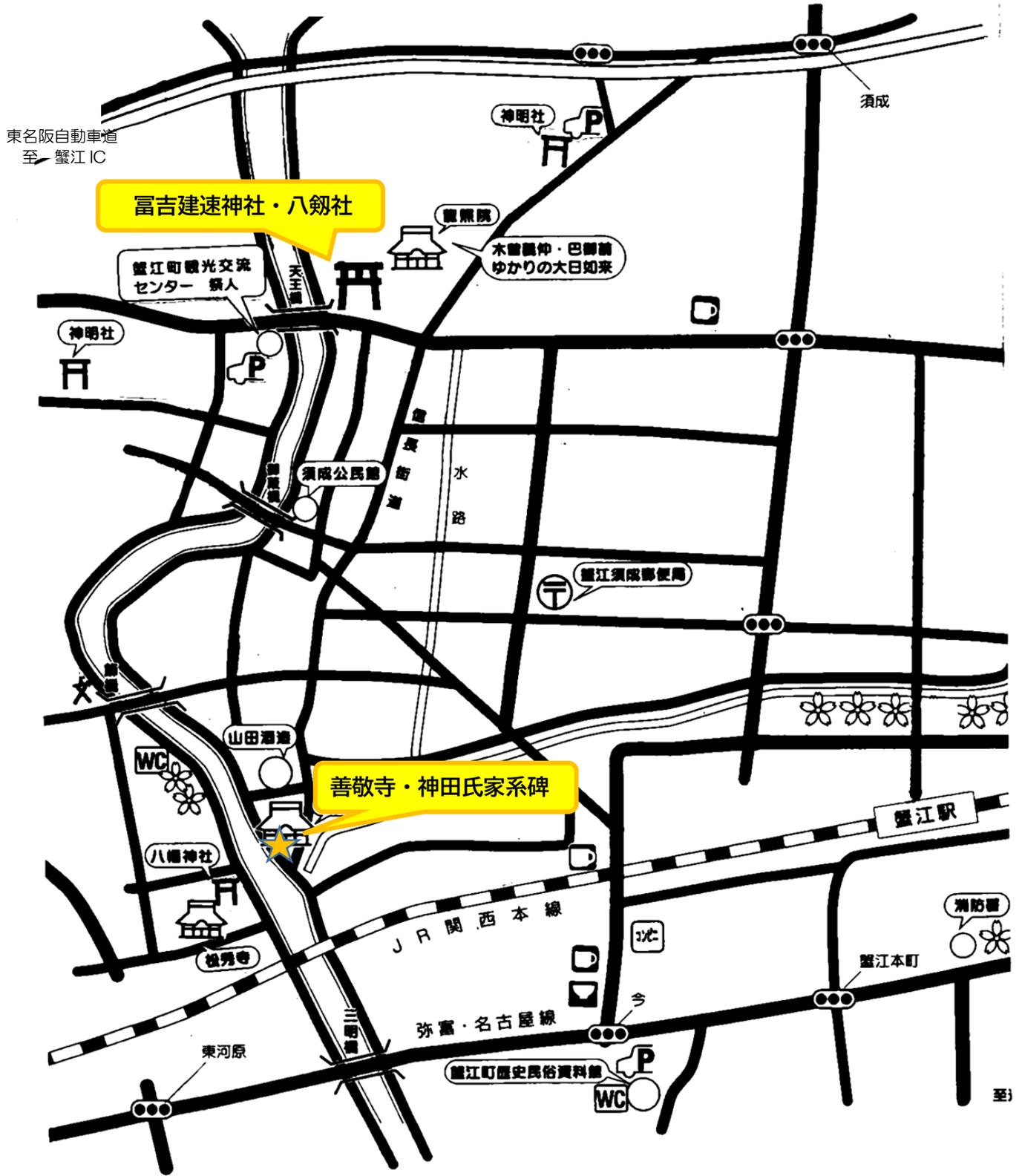


富吉建速神社・八剱社



灯籠の後ろに「神田鑄藏」の文字があります。

# ★ゆかりの地 MAP



参考：『風雲六十三年神田鑄藏翁』紅葉会 1953  
 『紅葉屋十年誌』  
 『私の回顧録』神田謹一 2002